

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ 臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

研究課題名：骨盤臓器脱に対する治療の治療経過に関する後方視的検討

1. 対象となる患者さん

2015年1月1日から2025年3月31日までに当院で骨盤臓器脱に対する治療を受けた患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 泌尿器科 後藤大輔

3. 研究の目的と意義

骨盤臓器脱は中高年の女性にみられる進行性の疾患です。軽度の骨盤臓器脱では腹圧性尿失禁を合併する頻度が高く、中等度以上では尿排出障害を合併する頻度が高くなります。保存的治療として pessary の留置という方法もありますが、治療の中心は手術療法です。その方法として、メッシュで仙骨と膣を固定し、膀胱や子宮断端を吊り上げる仙骨膣固定術や、経膣メッシュ手術、膣閉鎖術など様々がありますが、骨盤臓器脱の手術の術後経過をみた研究は十分にあるとは言えません。この研究は骨盤臓器脱患者さんの手術後の経過を明らかにし、術後の排尿蓄尿症状がどれくらい改善しているかを明らかにし、また再手術が必要になりやすい方を早期発見し、治療することで、患者さんの日常生活の質を向上することにつながる可能性があると考えます。

4. 研究の方法

5 に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、骨盤臓器脱の治療後における排尿状態の変化や治療別の再発率などを算出します。

5. 使用する情報

診療情報：診断名、治療方法、治療日、併存疾患、投薬内容、排尿管理方法、骨盤臓器脱の再発の有無、一般血液検査結果（末梢血算・血液生化学的検査）、尿一般検査（尿定性・生化学的検査）、国際前立腺症状スコア（IPSS）（IPSS は女性に対しても通常の診療で使用することがスタンダードです）、過活動膀胱症状スコア（OABSS）、ウロダイ

ナミクス検査。

6. 情報の管理責任者
奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間
2024年10月8日から2027年3月31日

8. 個人情報の取り扱い
対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる兵法は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先
奈良県立医科大学附属病院 泌尿器科 後藤大輔
住所：奈良県橿原市四条町840
電話：0744-22-3051
e-mail：urology@naramed-u.ac.jp